

本研修会は、地域研修として東総地域の支援の充実を目指して千葉支部発足時から行い、今回で14回目となります。コロナ禍の中で、昨年・一昨年と中止となっていましたが、今年度は感染の予防に配慮しながら3年ぶりに対面で行うことができました。以下、概要を報告いたします。

- 日時*2022年8月28日(日)13時30分~16時30分
- 会場* 旭市民センター内 市民会館・1F会議室
- 研修テーマ「幼児期から成人期までの切れ目のない支援の充実を目指して」
- 講師 根本 浩晃 氏(千葉県立銚子特別支援学校)
鈴木 春雄 氏(千葉県立栄特別支援学校)
小田島 和枝 氏(東金マザーズホーム嘱託)

千葉県では、特別支援教育の更なる充実を図るため、令和4年3月に「第3次千葉県特別支援教育推進基本計画」及び「第3次県立特別支援学校整備計画」が策定されました。計画期間は、令和13年度までの10年間です。重点項目の1つとして、幼児期から成人期までの切れ目のない支援体制の充実がうたわれています。

まず、根本氏から「県立特別支援学校における『通級による指導』について」と題して、銚子特別支援学校の取組について講話をいただきました。平成26年度に「センター的機能の充実」に関する研究指定を受け、平成27年度から肢体不自由の「(児童生徒の在籍校に出向いての)通級による指導」を開始。令和3年度からは、視覚・聴覚・病弱についても開始されたとのことでした。東総地域4市3町の子どもたちが対象となっており、令和4年度は20名の児童生徒が週1時間(小学校45分、中学校50分)自立活動の指導を受けているとのことでした。(肢体不自由で15名、視覚障害で5名)指導開始までの流れや実際の指導の実際についてもお話いただき、特別支援学校のセンター的機能の一環としての「通級による指導」が、支援を必要としている児童生徒にとってかけがえのない存在になっていることを学ぶことができました。

次に、鈴木氏からは、「切れ目のない支援の充実を目指して~センター的機能を通して~」と題して講話をいただきました。特殊教育から特別支援教育へ転換が図られる中、当時特別支援学校における地域支援コーディネーターを任された鈴木氏の体験を交えた貴重なお話を伺うことができました。様々な対場の専門家が、夜自主的に研修の場を作り熱く語り合った「YAPPE(やっぺ)の会」のこと。県の特別支援教育基本計画の変遷。栄特別支援学校における「医療的ケアを必要とする幼児児童生徒への支援の充実」に関する取組についてなどもお話いただきました。ICTを活用した交流及び共同学習、パラスポーツや文化芸術活動を通じた交流及び共同学習など大変興味深い内容でした。

最後に、小田島氏からは「乳幼児期の支援 マザーズホームでの療育」と題して、マザーズホームでの乳幼児期の支援についての講話をいただきました。マザーズホームとはどのような支援の場か、利用までの流れ、保育のねらい、どのように個別の支援計画を作りどのように実際の支援が行われるのかを具体的にお話いただきました。支援を必要としている親子にとってのかけがえのない場であることが実感できました。

参加者からは、「自治体の施策の特徴もわかり大変勉強になりました。」という感想をいただくなど、充実した研修を行うことができました。参加人数は、12名でした。(文責 大槻 美智子)